

みずほマーケット・トピック (2017 年 8 月 10 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

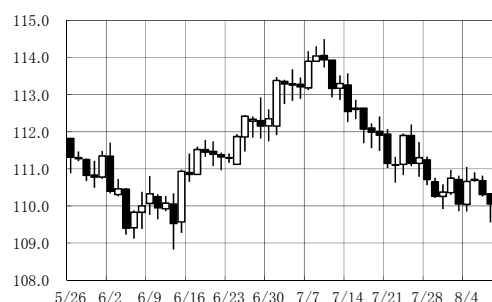
1. 為替相場の動向 (関連レポート: 「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・ 今週のドル/円相場は軟調な展開。週初 7 日に 110 円台後半でオープンしたドル/円は、先週末の良好な米 7 月雇用統計の結果を受けたドル買いの動きに支えられ底堅く推移。特段指標の発表もなく材料難の中であったが、じりじりと上値を切り上げ一時週高値となる 110.92 円をつけた。翌 8 日には日経平均株価が 2 万円を割り込む展開にドル/円も水準を切り下げ、一時 110 円台前半まで値を下げたが、米 6 月求人件数が予想以上に増加し、米金利が上昇すると 110 円台後半まで買い戻された。しかし、北朝鮮が弾道ミサイルに搭載可能な小型核弾頭の製造に成功したとの報道や、トランプ米大統領が北朝鮮を強くけん制する発言を受け、リスク回避の円買いが強まりドル/円は再び 110 円台前半まで反落した。9 日も北朝鮮情勢の緊迫化が意識される中、日経平均株価が下げ幅を拡大する動きにドル/円は 110 円を割り込んだ。また、パリ郊外においてフランス軍当局者に乗用車が突っ込む事件が発生し、テロへの警戒感が強まり欧州株が軒並み値を下げると、ドル/円は一時週安値となる 109.56 円をつけた。しかし、ティラーソン米 국무長官が北朝鮮との緊張を抑制する発言をし、またマティス米国防長官が北朝鮮に対し軍事行動よりも外交的解決策が優先されるべきと発言。ドル/円はショートカバーから 110 円近辺まで反発し、本日も同水準で推移している。
- ・ 今週のユーロ/ドル相場は上値重い展開。週初 7 日に 1.17 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、欧州株が堅調に推移する中、米 7 月雇用統計後に構築されたユーロ売りポジションを解消する動きなどを背景に 1.18 近辺で底堅く推移した。8 日には一時週高値となる 1.1824 をつけたものの、米 6 月求人件数の結果を受けてドル買い優勢地合いになると、ユーロ/ドルは 1.17 台前半まで急落した。その後は 1.17 台半ば近辺まで買い戻されたものの、9 日も北朝鮮情勢が懸念される中でユーロ/ドルは上値の重い展開。パリ郊外において乗用車が兵士に突っ込む事件が発生し、テロへの警戒感からリスク回避の動きが強まると欧州株が全面安になり、ユーロ/ドルは一時週安値となる 1.1689 まで値を下げた。しかし、このレベルでは買い意欲も相応にあり、またティラーソン米 국무長官やマティス米国防長官による北朝鮮との外交的解決を引き続き模索する旨の発言も相俟って、売り一巡後は 1.17 台後半まで値を戻した。本日のユーロ/ドルも、1.17 台後半での値動きとなっている。

今週のおもな金融市場動向 (出所: ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		8/4(Fri)	8/7(Mon)	8/8(Tue)	8/9(Wed)	
ドル/円	東京9:00	109.89	110.82	110.76	110.11	
	High	111.05	110.92	110.83	110.37	
	Low	109.85	110.65	110.25	109.56	
	NY 17:00	110.66	110.72	110.31	110.05	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1883	1.1779	1.1800	1.1754	
	High	1.1889	1.1814	1.1824	1.1764	
	Low	1.1728	1.1771	1.1715	1.1689	
	NY 17:00	1.1774	1.1796	1.1752	1.1759	
ユーロ/円	東京9:00	130.59	130.50	130.69	129.40	
	High	131.11	130.86	130.81	129.71	
	Low	130.10	130.40	129.61	128.44	
	NY 17:00	130.30	130.63	129.70	129.46	
日経平均株価		19,952.33	20,055.89	19,996.01	19,738.71	
TOPIX		1,631.45	1,639.27	1,635.32	1,617.90	
NYダウ工業株30種平均		22,092.81	22,118.42	22,085.34	22,048.70	
NASDAQ		6,351.56	6,383.77	6,370.46	6,352.33	
日本10年債		0.07%	0.07%	0.07%	0.06%	
米国10年債		2.26%	2.25%	2.26%	2.25%	
原油価格(WTI)		49.58	49.39	49.17	49.56	
金(NY)		1,258.77	1,257.90	1,260.95	1,277.34	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・米国では、15 日(火)に発表の 7 月小売売上高は前月比+0.4%(6 月:同▲0.2%)と、7 月自動車販売台数が 3 か月ぶりに増加したことなどを背景に増加する見通しである。コア小売売上高(除く自動車、ガソリン、建材、外食)は 5～6 月に低迷したが、7 月は前月比+0.4%と力強さを取り戻すと予想されている。また、翌 16 日(水)には 7 月住宅着工件数の発表がある。6 月の住宅着工件数は前月比+8.3%の年率+121.5 万件と 4 か月ぶりに増加した。着工の先行指標となる住宅建設許可件数も 6 月は前月比+9.2%の年率+127.5 万件と大きく増えており、7 月の住宅着工は前月比+0.8%の年率+122.5 万件と 2 か月連続で増加する見通しである。なお、7 月の住宅建設許可件数は前月比▲2.8%の年率+124.0 万件と減少すると見込まれている。金融政策に関しては、11 日(金)にカンシュカリ・ミネアポリス連銀総裁、17 日(木)にカブラン・ダラス連銀総裁が講演を行うほか、16 日(水)に FOMC 議事要旨(7 月 25～26 日開催分)が公表される。
- ・本邦では、14 日(月)に 4～6 月期 GDP(1 次速報)の公表が予定されており、前期比+0.6%(年率+2.5%)と 6 四半期連続のプラス成長になる見通しである。世界的な IT サイクルの改善に一服感が生じたことで、外需が 4 四半期ぶりにマイナス寄与となる一方、好調な内需がけん引役となることで高めの成長率になったとみられる。個人消費は中小企業の賃上げ継続などを背景に堅調となり、在庫投資や住宅投資も押し上げに寄与したようだ。また、2016 年度第 2 次補正予算での経済対策が進捗し、公共投資も 4 四半期ぶりのプラスとなったとみられる。このほか、17 日(木)には 7 月貿易統計の発表がある。7 月上中旬(1～20 日)分の貿易統計では、輸出は前年比+14.2%(6 月上中旬:同+9.0%)、輸入は同+17.5%(6 月上中旬:同+14.5%)となり、貿易収支は 56 億円の黒字となった。市場では 7 月全体の輸出は同+13.6%、輸入は同+17.3%と予想されており、貿易収支は 3271 億円の黒字、季節調整値では 1953 億円の黒字が見込まれている。

	本 邦	海 外
8 月 10 日(木)	・6 月第三次産業活動指数	・米 7 月生産者物価 ・米 7 月財政収支
11 日(金)	休場(山の日)	・独 7 月消費者物価(確報) ・米 7 月消費者物価
14 日(月)	・4～6 月期 GDP(1 次速報)	・ユーロ圏 6 月鉱工業生産
15 日(火)	・6 月鉱工業生産(確報)	・米 8 月ニューヨーク連銀製造業景気指数 ・米 7 月小売売上高 ・米 6 月企業在庫
16 日(水)	—————	・ユーロ圏 4～6 月期 GDP(改定値) ・米 7 月住宅着工 ・米 FOMC 議事要旨(7 月 25～26 日開催分)
17 日(木)	・7 月貿易収支	・ユーロ圏 6 月貿易収支 ・ユーロ圏 7 月消費者物価指数(確報) ・ECB 政策理事会議事要旨(6 月 8 日開催分) ・米 8 月フィラデルフィア連銀製造業景気指数 ・米 7 月鉱工業生産 ・米 7 月景気先行指数
18 日(金)	—————	・ユーロ圏 6 月経常収支 ・米 8 月ミシガン大学消費者マインド指数(速報)

【当面の主要行事日程(2017 年 8 月～)】

ジャクソンホール経済会議(8 月 24～26 日)
 米 FOMC(9 月 19～20 日、10 月 31 日～11 月 1 日、12 月 12～13 日)
 ECB 政策理事会(9 月 7 日、10 月 26 日、12 月 14 日)
 日銀金融政策決定会合(9 月 20～21 日、10 月 30～31 日、12 月 20～21 日)
 ドイツ総選挙(9 月 24 日)

国際為替部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー (2017年8月)

月	火	水	木	金	週末
	1 日本 自動車販売台数 (7月) ユーロ圏 製造業PMI (確報、7月) ユーロ圏 GDP (速報値、4～6月期) 米国 ISM製造業景気指数 (7月) 米国 建設支出 (6月)	2 日本 マネタリーベース (7月) 米国 ADP雇用統計 (7月)	3 ユーロ圏 サービス業PMI (確報、7月) 米国 ISM非製造業景気指数 (7月) 米国 製造業新規受注 (6月) 米国 耐久財受注 (確報、6月)	4 日本 毎月勤労統計 (6月) ドイツ 製造業受注 (6月) 米国 雇用統計 (7月) 米国 失業率 (7月) 米国 貿易収支 (6月)	
7 日本 景気動向指数 (速報、6月) ドイツ 鉱工業生産 (6月) 米国 労働市場情勢指数 (7月) 米国 消費者信用残高 (6月)	8 日本 国際収支 (6月) 日本 貸出・預金動向 (7月) 日本 景気ウォッチャー調査 (7月) ドイツ 貿易収支 (6月)	9 日本 マネーストック (7月) 米国 卸売売上高 (6月)	10 日本 機械受注 (6月) 日本 国内企業物価 (7月) 日本 第三次産業活動指数 (6月) 米国 生産者物価 (7月) 米国 財政収支 (7月)	11 日本 山の日 ドイツ 消費者物価 (確報、7月) 米国 消費者物価 (7月)	
14 日本 GDP(速報、4～6月期) ユーロ圏 鉱工業生産 (6月)	15 日本 鉱工業生産 (確報、6月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数 (8月) 米国 小売売上高 (7月) 米国 企業在庫 (6月) 米国 TICレポート (対外対内証券投資) (6月)	16 ユーロ圏 GDP (改定値、4～6月期) 米国 住宅着工 (7月) 米国 FOMC議事要旨 (7月25～26日開催分)	17 日本 貿易収支 (7月) ユーロ圏 貿易収支 (6月) ユーロ圏 消費者物価指数 (確報、7月) ユーロ圏 ECB理事会議事要旨 (6月8日開催分) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数 (8月) 米国 鉱工業生産 (7月) 米国 景気先行指数 (7月)	18 ユーロ圏 経常収支 (6月) 米国 ミシガン大学消費者マインド (速報、8月)	
21 米国 シカゴ購買部協会景気指数 (7月)	22 ドイツ ZEW景況指数 (8月)	23 ユーロ圏 製造業PMI (速報、8月) ユーロ圏 サービス業PMI (速報、8月) 米国 新築住宅販売 (7月)	24 日本 景気動向指数 (確報、6月) 米国 中古住宅販売 (7月)	25 日本 全国消費者物価 (7月) 日本 東京都都区部消費者物価 (8月) 日本 企業向けサービス価格 (7月) ドイツ IFO企業景況指数 (8月) ドイツ GDP (確報、4～6月期) 米国 耐久財受注 (速報、7月)	
28	29 日本 失業率 (7月) 日本 家計調査 (7月) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格 (6月) 米国 消費者信頼感指数 (8月)	30 ドイツ 消費者物価 (速報、8月) 米国 ADP雇用統計 (8月) 米国 GDP (2次速報、4～6月期) 米国 個人所得・消費 (2次速報、4～6月期) 米国 PCEコアデフレーター (2次速報、4～6月期)	31 日本 鉱工業生産 (速報、7月) 日本 新設住宅着工 (7月) ユーロ圏 失業率 (7月) ユーロ圏 消費者物価指数 (速報、8月)		

〔注〕*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
 〔資料〕ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー (2017年9月)

月	火	水	木	金	週末
				1 日本 自動車販売台数 (8月) ユーロ圏 製造業PMI (確報、8月) 米国 雇用統計 (8月) 米国 失業率 (8月) 米国 ISM製造業景気指数 (8月) 米国 ミシガン大学消費者マインド (確報、8月) 米国 建設支出 (7月)	
4 日本 マネタリーベース (8月)	5 ユーロ圏 サービス業PMI (確報、8月) ユーロ圏 GDP (確報、4～6月期) 米国 労働市場情勢指数 (8月) 米国 製造業新規受注 (7月) 米国 耐久財受注 (確報、7月)	6 日本 毎月勤労統計 (7月) ドイツ 製造業受注 (7月) 米国 貿易収支 (7月) 米国 ISM非製造業景気指数 (8月) 米国 ページュブック	7 日本 景気動向指数 (速報、7月) ドイツ 鉱工業生産 (7月) ユーロ圏 ECB理事会 (フランクフルト)	8 日本 国際収支 (7月) 日本 GDP (確報、4～6月期) 日本 貸出・預金動向 (8月) 日本 景気ウォッチャー調査 (8月) ドイツ 貿易収支 (7月) 米国 卸売売上高 (7月) 米国 消費者信用残高 (7月)	
11 日本 機械受注 (7月) 日本 マネーストック (8月) 日本 第三次産業活動指数 (7月)	12 日本 国内企業物価 (8月)	13 ドイツ 消費者物価 (確報、8月) ユーロ圏 鉱工業生産 (7月) 米国 生産者物価 (8月) 米国 財政収支 (8月)	14 日本 鉱工業生産 (確報、7月) 米国 消費者物価 (8月)	15 ユーロ圏 貿易収支 (7月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数 (9月) 米国 小売売上高 (8月) 米国 鉱工業生産 (8月) 米国 ミシガン大学消費者マインド (速報、9月) 米国 企業在庫 (7月)	
18 日本 敬老の日 ユーロ圏 消費者物価指数 (確報、8月) 米国 TICレポート (対外対内証券投資) (7月)	19 ユーロ圏 経常収支 (7月) ドイツ ZEW景況指数 (9月) 米国 住宅着工 (8月) 米国 FOMC (～20日)	20 日本 貿易収支 (8月) 日本 日銀金融政策決定会合 (～21日) 米国 中古住宅販売 (8月)	21 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数 (9月) 米国 景気先行指数 (8月)	22 ユーロ圏 製造業PMI (速報、9月) ユーロ圏 サービス業PMI (速報、9月)	24 フランス 上院議会選挙 ドイツ 連邦議会選挙
25 日本 景気動向指数 (確報、7月) ドイツ IFO企業景況指数 (9月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数 (8月)	26 日本 企業向けサービス価格 (8月) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格 (7月) 米国 新築住宅販売 (8月) 米国 消費者信頼感指数 (9月)	27 米国 耐久財受注 (速報、8月)	28 ドイツ 消費者物価 (速報、9月) 米国 GDP (3次速報、4～6月期) 米国 個人所得・消費 (3次速報、4～6月期) 米国 PCEコアデフレーター (3次速報、4～6月期)	29 日本 失業率 (8月) 日本 家計調査 (8月) 日本 全国消費者物価 (8月) 日本 東京都区部消費者物価 (9月) 日本 鉱工業生産 (速報、8月) 日本 新設住宅着工 (8月) ユーロ圏 消費者物価指数 (速報、9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド (確報、9月)	

[注] *を付したものは公表予定が未定であることを示す。
[資料] ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2017年8月9日	2017年上半期の円の基礎的需給環境などについて
2017年8月8日	技術的難しさが極まるECBの量的緩和の現状
2017年8月7日	米7月雇用統計～加速しない賃金と伸び悩む「賃」～
2017年8月4日	週末版(ユーロ圏のフィリップス曲線の現状～フラット化して下方シフト～)
2017年8月3日	フォワードルッキングという幻想②～OECD景気先行指数を通じて～
2017年8月2日	フォワードルッキングという幻想～日銀議事要旨が示唆する戒め～
2017年8月1日	実効相場で考えるドル相場の現状～調整は始まったばかり～
2017年7月28日	週末版(メインシナリオへのリスク点検～新しいリスクは「安倍退陣」と「正常化ブーム」～)
2017年7月27日	FOMCを終えて～後任人事を見据えてハト派化も？～
2017年7月26日	ECB政策理事会の読み方～シントラ発言の火は消せず～
2017年7月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年6月分)
2017年7月21日	週末版(日銀金融政策決定会合を受けて～次の論点は外交的視点～)
2017年7月20日	最近のユーロ相場について～投機筋、PPP、金利差～
2017年7月19日	ECB政策理事会プレビュー～「火に油」を避けるべく・・・～
2017年7月14日	週末版(ドル/円相場の水準感について～現状の「異常さ」を見つめ直す～)
2017年7月13日	イエレン議会証言を受けて～花道の正常化は続く模様～
2017年7月12日	EU回帰でドイツは変わるのか？
2017年7月11日	正常化ブームの中で考えたい各国中銀の立ち位置
2017年7月10日	円相場の基礎的需給環境～円キャリーの兆候はあるか？～
2017年7月7日	週末版(ECB政策理事会議事要旨～ドラギ総裁はしじった模様～)
2017年7月6日	FOMC議事要旨～正常化は資産バブル対応？～
2017年7月5日	ECB版テーパー・タントラムの現状と展望
2017年7月4日	ドル安・円安の読み方～「正常化」ブームは流れを変えるのか～
2017年7月3日	都議選の影響を考える～新しいリスクの浮上～
2017年6月30日	週末版
2017年6月28日	ドラギ講演を受けて～「一時的」が流行る風潮の危うさ～
2017年6月27日	メインシナリオのリスク点検～引き続き目立つ円高材料～
2017年6月26日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年5月分)
2017年6月23日	ブラットECB理事発言を考える～影響力は侮れず～
2017年6月22日	週末版
2017年6月21日	対内・対外証券投資の近況～リセットされたトラントレード～
2017年6月19日	カシュカリ・エッセイから学ぶこと～信仰(faith)とデータ(data)～
2017年6月16日	日銀金融政策決定会合～「座して円高を待つ」状況へ～
2017年6月15日	FOMCを終えて～「笛吹けど踊らず」の状況強まる～
2017年6月14日	ユーロ相場の本格反転に必要なもの
2017年6月13日	盛り上がらない米国のインフレ期待や与信環境について
2017年6月12日	ECB政策理事会～「露払い」としてのFG文言修正～
2017年6月9日	週末版(英総選挙を受けて～「不要なギャンブル」の成れの果て～)
2017年6月8日	英下院総選挙について～直前の論点整理～
2017年6月7日	110円割れで思うこと～変わり始めた欧米の論調～
2017年6月5日	日銀総資産500兆円突破を受けて～杞憂の出口議論～
2017年6月2日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～出口戦略の順序に変更なし～)
2017年6月1日	2016年末対外資産・負債残高統計～リスク回避の源泉～
2017年5月29日	メインシナリオのリスク点検～目立つ円高リスク～
2017年5月26日	週末版(本邦4月消費者物価指数(CPI)を受けて～依然、埋まらない日米物価格差～)
2017年5月25日	FOMC議事要旨を受けて～株価は耐えられるのか？～
2017年5月24日	相次いで弱体化するFRB高官～動揺する唯一の支え～
2017年5月23日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年4月分)
2017年5月22日	メルケル首相発言を受けて～異形のドイツがすべきこと～
2017年5月19日	ドル相場の現状認識～4月分REERの公表を受けて～
2017年5月17日	週末版
2017年5月16日	ドルインデックスの急落を受けて
2017年5月15日	ユーロ相場の現状について～投機買い持ちでも上がらず～
2017年5月12日	イタリアG7を終えて～「量」か「価格」か「説得」か～
2017年5月11日	週末版(欧州委員会春季経済予測を受けて～今後心配な「スラックの格差」～)
2017年5月10日	円相場の基礎的需給環境～様変わりする景色～
2017年5月9日	米インフレ期待低迷が映す米経済への過信
2017年5月8日	米商務省声明が予感させる「理不尽な円高」
2017年4月28日	フランス大統領選挙を受けて～おさらいすべきフランスの現状～
2017年4月27日	週末版(ECB理事会を終えて～「次の一手」は引き締めが濃厚～)
2017年4月25日	ECB理事会プレビュー②～フォワードガイダンス撤廃報道について～
2017年4月24日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年3月分)
2017年4月21日	メインシナリオのリスク点検～揺る「第二次ブラザ合意」疑惑～
2017年4月20日	フランス大統領選挙第1回投票～終わらない政治リスク～
2017年4月19日	週末版(ECB理事会プレビュー～争点はフォワードガイダンスの取り扱い～)
2017年4月17日	米金利低下と円高相場～投資家は「外」から「内」へ～
2017年4月14日	英総選挙の前倒し実施～「絶対に負けられない戦い」へ～
2017年4月13日	米為替政策報告書の読み方
2017年4月12日	週末版(依然として懸念されるユーロ圏の域内格差～顕著になる「地力の差」～)
2017年4月11日	改めて考えるポリシーミックスの在り方
2017年4月7日	試される「リスク回避の円買い」の妥当性
2017年4月6日	円相場の基礎的需給環境～ベシススワップと対外証券投資～
2017年4月5日	週末版(ECB理事会議事要旨～鍵を握るAPPの延長可否～)
2017年4月4日	FOMC議事要旨を受けて～「B/S縮小≡ドル高」とは限らず～
2017年4月3日	真つ当な米利上げ反対論～ブレインードからカシュカリへ～
2017年3月31日	外貨準備構成通貨の現状(2016年12月末時点)
2017年3月30日	2つの大統領令を受けて～内政の苛立ちを外交で発散へ～
2017年3月28日	週末版
2017年3月24日	ユーロ圏の物価に関する現状と展望～ECBへの影響～
2017年3月22日	メインシナリオのリスク点検～要警戒の4月中旬～
2017年3月21日	週末版(英EU離脱の正式通告について～当面の展望や為替見通し～)
2017年3月17日	ドル/円相場の水準感について～112円割れを受けて～
2017年3月16日	バーデンバーデンG20を受けて～前哨戦は米国に軍配～
2017年3月15日	週末版(日銀金融政策決定会合を終えて～再確認したい現行枠組みの脆弱性～)
2017年3月14日	FOMCを受けて～さほどハト派にあらず？～
2017年3月13日	米インフレ期待低迷から何を讀むか～FOMCの前に～
2017年3月10日	円相場の基礎的需給環境～窮屈になる対外証券投資の環境～
2017年3月9日	ECB理事会を受けて～対米配慮と対独配慮に苦悶～
2017年3月8日	週末版
2017年3月3日	週末版